

びわ湖ホールの評価および今後の運営方針について

～ 委託調査結果を踏まえて～

財団法人びわ湖ホール

【調査の趣旨】

開館以来10年を経過したことを機に、びわ湖ホールのこれまでの取り組みに対する評価を明らかにするとともに、今後の運営に生かしていくため、専門機関に委託し、びわ湖ホールに対する県民の意識調査とその分析を行いました。

併せて、経済的効果を数量的に把握するため、産業連関表による滋賀県内における生産誘発額およびパブリシティ効果を試算しました。

【調査結果を踏まえてのびわ湖ホールのこれまでの評価および今後の運営方針等】

公的施設としてのびわ湖ホールの存立、あり方、運営についての評価を行うため、専門的見地からびわ湖ホールの文化的、社会的、経済的効果の3つの視点から調査・分析を行いました。

この委託調査結果を踏まえた財団法人びわ湖ホールとしてのこれまでの運営の評価および今後の運営方針の考え方は、以下のとおりです。

- 1 びわ湖ホール存立の評価については、県民にとってびわ湖ホールの存在感は大きく、全国的な知名度は滋賀県の公的な文化施設の中では圧倒的に高いという結果でした。

このことは、昨年9月に開館10周年を迎えたびわ湖ホールが、これまでオペラ、コンサート、ダンス、バレエ、演劇、古典芸能など質の高い多彩な舞台芸術公演を実施するだけでなく、舞台芸術を演じるアマチュアの人たちの発表の場を提供してきたことや国際大会や学会などのコンベンション会場としての役割を果たすなど、開館以来の総来場者数が210万人を超える総合的な県立劇場としての活動が評価された結果だと考えています。こうした評価に鑑み、今やびわ湖ホールは、滋賀の新しい魅力を発信する施設として国内外に誇りうる芸術劇場へと育ってきたと考えられます。

- 2 びわ湖ホールの文化的効果、社会的効果および経済的効果のそれぞれの効果のうち、県民には、「質の高い音楽や演劇などの文化芸術に接する機会を提供する」、「音楽や芸術の楽しさを伝え、文化や芸術を見る目を育てる」などの文化的効果が最も強く意識されていることがわかりました。

県民に最も強く意識されているこの文化的効果については、沼尻芸術監督の監修のもと、びわ湖ホール独自の創意工夫を凝らし新たな取り組みを加えながら、今まで以上に発揮していきたいと考えています。具体的には、若手芸術家などとの共同企画公演の実施、国内外の劇場・ホールとの共同制作・共同招聘の実施、ロビーコンサートなど身近で親しめる事業を増やしていくことなどを進めていきたいと考えています。

3 びわ湖ホールの社会的効果や経済的効果に対する県民の意識は、現時点では文化的効果ほど明確に意識されていないという結果となりました。

文化的効果に比べてこの社会的効果・経済的効果については、まだ目に見える形で発現していないからだと考えられます。そのため、今後、そうした効果が目に見えて認識され、地域に賑わいを生み出す劇場、地域に無くてはならない劇場として意識されるような事業展開を図る必要があります。具体的には、今年度初めての試みであります地域の団体や企業等と連携した「びわ湖大津秋の音楽祭」の開催および声楽アンサンブルを活用した地域との協働事業の実施、また教育機関と連携した事業、オープンカフェや周辺地域との連携による事業展開、さらに（社）びわこビジターズビューローと連携しながら地域への経済的波及効果の高いコンベンションの積極的な誘致などを図っていきたいと考えています。

4 びわ湖ホールの運営について、県民の見方には、高度な芸術性志向の運営を重視する傾向と採算志向の運営を重視する傾向の二つの要因が交差しています。また、高度な芸術性志向の運営を求める者ほど、公的機関による文化ホールの運営が必要と考えている傾向が強いことがわかりました。

今後の財団の運営については、芸術性志向の運営と採算性志向の運営の両方を追い求めていく考えです。芸術性志向の運営については、沼尻芸術監督の監修のもと、引き続き自主オペラの制作などびわ湖ホール独自の質の高い創造活動を展開していくこととし、一方、大ホールにおける名曲コンサートなど採算性を重視した公演も積極的に取り入れていきたいと考えています。

5 今回、開館10年を迎えたことを機に、上記委託調査と併せて経済的効果を数量的に把握するため、産業連関表による滋賀県における生産誘発額を試算しました。また平成20年度においてびわ湖ホールに関して取り上げられた新聞、テレビ、ラジオでの件数をもとに、パブリシティ効果も試算しました。それらの概要は、次のとおりです。

生産誘発額	2,286,074 千円 (H19年度数値)
直接効果	1,469,793 千円
生産誘発額 (2,286,074 千円の内訳)	
・生産過程による波及効果 (第1次波及効果)	917,654 千円
・賃金による波及効果 (第2次波及効果)	418,319 千円
・来館者の消費行動による波及効果	950,101 千円

パブリシティ効果	2.2 億円 (H20年度件数)	
新聞掲載件数	429 件、テレビ・ラジオのCM件数	27 件

6 今回の委託調査の結果も踏まえて、びわ湖ホールの社会的な役割を一層果たしていくため、「人々と地域と創造に開かれた劇場」を基本方針とした中期経営計画 (第1期・改訂版 H21.5.28 決定) を策定し、強力に推進していくこととします。

【中期経営計画（第1期・改訂版）H21.5.28 決定】

基本方針 「人々と地域と創造に開かれた劇場」

人々に開かれた劇場

- ・誰もが気軽に舞台芸術に参加できることを基本に事業を展開する。
- ・若い世代の舞台芸術体験を増やし、次世代が育つ環境を整える。
- ・舞台芸術を学び、楽しむ人たちの晴れ舞台の役割を果たす。

地域に開かれた劇場

- ・地域社会で活動する様々な団体や企業との連携と協働を進め、まちづくりや経済発展に貢献する。
- ・声楽アンサンブルを中心に各地域との連携を進める。
- ・芸術家や地域の人々・団体との間で舞台芸術をめぐる様々な交流が生まれる活動を行う。

創造に開かれた劇場

- ・声楽アンサンブルを生かしながら、独自の質の高い創造活動を展開する。
- ・国内外のトップレベルの芸術家・芸術団体の訪れるホールであり続ける。
- ・若い芸術家や先進的な芸術団体などとの様々な連携と協働を進める。
- ・国内外の劇場・ホールや芸術家・芸術団体のネットワークを広げ、国内外に創造的情報を発信する。